

## 平成29年度企画展

### 「小澤彦三が見た昭和初期のべつかい」

### 移動巡回展のお知らせ！

●中央公民館 3月6日（火）～3月19日（月）

小澤彦三氏は、明治36年(1903)5月10日山梨県小澤村生まれ。昭和2-3年(1927-28)頃帯広の金物店に勤めました。その後、別海村春日に店を開き、中西別広野に移りました。若い頃からドイツ製のカメラを持ち、地域の様々な出来事を撮影していました。

昭和4年(1929)～昭和30年(1955)頃の別海・中西別・上春別地区の様子で、これまでに町史・地域史に使用されるなど別海町の開拓の歴史を語る上では欠く事の出来ない資料となっていました。



### ふるさと講座・自然系第3回目を実施しました。

### 「冬の野鳥観察会～海カモメ・海ガモ・海ワシを見よう！」

2月11日(日)、別海町立野付中学校校長藤井薫氏を講師に迎え、参加者11名で実施いたしました。

はじめに、藤井氏から冬期間に観察できる代表的な鳥についてのお話をいただきました。その後、町内尾岱沼漁港、春別川河口、別海漁港、西別川河口、走古丹漁港、風連湖と車で移動しながらの観察会となりました。各漁港では普段何気なく見ているカモメについての見分け方、この時期渡来するワシの大部分が風連湖などの氷下待網漁の雑魚を目的に集まるなど多くの鳥を観察することが出来ました。



### ●観察した鳥

ハマシギ、スズガモ、カワイアサ、オオワシ、シロカモメ、オオセグロカモメ、オオハクチョウ、マガモ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、オナガガモ、ミコアイサ、カモメ、ツグミ、シノリガモ、オジロワシ、ホオジロガモ、トビシマエナガ、ハクセキレイ



## 「昔のくらしと道具」を調べる授業に郷土資料館が活用されています。

小学校3年生の社会科には、「昔のくらしと昔の道具」という単元があります。2～3月は、この授業が開始され、多くの学校が当館を訪れます。

当館では、数年前から、「昔の道具」を見学するだけでなく、実際に道具を使う体験も行っています。体験する道具は、「炭火アイロン」「火のし」「洗濯板」「湯たんぽ」「灯油ランプ」「せんべい焼き」で、使い慣れない道具に悪戦苦闘しながら、昔の生活の様子を少しでも感じてもらおうと考えました。なかでも、重たいせんべい焼き器で、焼くせんべいは、おいしいと評判です。

便利な生活をしている中で昔の道具を使うと、準備などに手間がかかり、その取扱いも不便さを感じますが、昔の生活の中では、常に密着し関連性のあるもので、知恵と工夫が隠されていることがわかったようです。今後もこうした体験を増やしていきたいと考えています。

また、一部資料は「昔体験セット」として貸出しも行っております。



別海町郷土資料館だより No.224

発行日 平成30年3月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町 30 番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記 「昔のくらしと道具」は、小学校3年生の授業で行うものです。教科書での時代設定は、昭和初期頃でしょうか？ 別海町では、大勢の開拓者たちが入植に入る時期で電気も水道もなかった時代です。まさしく企画展の小澤彦三さんが写真を写していた時代です。苦難の時代があり今につながっていることを改めて感じています。(K.I)